

し お で い け  
**塩手池**

しおで しょうぼくちょういちば はたけ  
**塩手池は、勝北町市場にあり、田んぼや畑の用水を  
ためておく大切な池です。**



## むかし 昔の人の苦勞

昔は、長い間雨が降らなくて田んぼに水が少なくなったら、夜どおし自分の田んぼへ水を引くために走り回り、最後には「どびん」や「ひしゃく」で稲に水を注ぐ「どびん水」「ひしゃく水」を行う人もいました。田んぼは、地割れをおこして白く乾き、稲はしおれてしまうため、人は殺氣立って水げんかをしました。また、村中みんなでお高い丘に登りマキなどを燃やし、雨の降ることをひたすらお祈りしたと伝えられています。



どびん



ひしゃく

このようにたびたびおこる水不足をなくすために、多くの資材と労力を使ってため池がつくられてきました。

## むかし 昔のため池づくり

塩手池は、勝田郡内の広戸川一帯の田んぼの用水をためておくみずがめです。もともと、このため池は1600年代に造られ、その当時は、35haの田んぼに水を配る小さな池でした。

ところが、明治時代には人口も増え、田んぼもたくさん造られたため、田んぼに引く水もたくさん必要となり、ため池を大きくしなければならなくなりました。そこで、大正14年に工事に着手し、池の高さを9.6m高くして、昭和4年に工事が完成しました。

今のように、ブルドーザーなどの機械がなかった時代ですから、



くわでほる



もっこで運ぶ



「くわ」で土をほったり、「もっこ」で土を運んだりして、千本づきという方法でつき固めたそうです。硬くしめなければ、水がもれたり、堤がくずれて、おそろしい洪水になるからです。

千本づき  
写真の左側に列をなしている人が棒を持って土を突いている

## 今のため池づくり

昭和4年に完成してから50年が過ぎたころになると、堤が古くなって水がもれだし、田んぼの水不足が起きたり、こわれるとあぶなくなったので、昭和59年から平成7年にかけて、県の事業でため池を造り直しました。

堤の高さをさらに1.5m高くし、ため池にたまった土を取り除き、ため池の一番上にたまった温かい用水をたんぼに送れるように、フローティング



フローティングアーム  
写真上部の四角い部分が水に浮き、そこから水をとる



タンピングローラー  
いぼいぼの部分が、千本づきの役割をもっている

アームという水の取り入れ口が造られました。

今は昔と違い、バックホウやブルドーザーで土をほったり、ダンプトラックで土を運んだり、タンピングローラーで土をしめかためたりして、丈夫なため池を造っています。このようにして、298haの田んぼに用水を配る大きな池ができあがりしました。

## いこいのひろばとして

塩手池の工事とともに、水とふれあう広場ができました。池の手前は広くて「つつみの広場」として木や芝生を植えたり、きゅうけいじょやトイレをつくり、みんなが遊べるようにしました。

水に近づけるところは、「水辺の広場」として、木で作った展望台や橋や滝を作り、みんなが水と仲良くできる工夫をしています。



参考文献：塩手池改築記念誌（岡山県勝英地方振興局農林事業部）